

デマンド型タクシーと空き店舗を利用した 高齢者に優しい公共交通

住民主体による持続可能な公共交通の導入と
地域内交流活発化を目的とした空き店舗の利活用

山形県鶴岡市藤島地域・八栄島・長沼地区について

基本情報(2018年10月 現在)

	八栄島地区	長沼地区
人口	909人	1084人
世帯数	265世帯	315世帯
高齢化率	39.8%	40.7%

- 住民の主な移動手段は自家用車である。
- 旧藤島町時代には、民間交通事業者が撤退後に町営バス「ぽっぽ号」を運行していたが、利用者の減少により2003年4月に廃止。以降は地域公共交通空白地域に。
- 地区内にスーパーやドラッグストアなどは無く、生活圏が三川町や庄内町である人の割合も多いため、市外への乗り入れを希望する声もある。



提案①

1. 八栄島・長沼地区にデマンド型の地域公共交通を導入

提案理由

- 過去に利用者の減少で公共交通が廃止となっている地域であり、利用者の有無にかかわらず毎日決まった本数が運行される方式よりも、住民の方から予約が入ったときのみに運行されるデマンド型交通（デマンド型タクシー）が地域の特性に合っている。

利用促進に向けたアイデア

- 藤島地域内の免許返納割引や利用距離・回数に応じたポイント制の特典、買い物弱者対策の拠点である『ふじしまふれあいセンター』などでの利用特典を設けることで、「人と交流できる場」や「外に出ることが楽しい」といったことを実感してもらう。
- デマンド型交通の予約に関して、高齢者の方が利用しやすい「アプリ」を開発することで、電話やFAXよりも簡単に予約をすることができる。
- 特に、生活圏が近隣の三川町や庄内町である人の割合も多いため、地域交通会議において、規制緩和を行い、鶴岡市外への乗り入れを目指すことで、利用者の拡大を目指す。

提案②

2. 空き店舗を活用した地域住民の拠点化とチャレンジショップの運営

提案理由

- 昨年9月に閉店した「ふじしまふれあいセンター」は、近隣に藤島庁舎や農業高校や小学校があり、住民や高校生の休憩・交流の場として活用できる。また、閉店の原因となった利用者の減少に関しても、八栄島・長沼地区のデマンド型交通にて「ふじしまふれあいセンター」を目的地の1つとして設定することで、一定の利用者を確保することが可能となる。

利用促進に向けたアイデア

- 平日の昼は、高齢者に対する食事支援、夕方からは鶴岡市で二番目となる「子ども食堂と学習支援施設」を月数回のペースで運営する。食材の提供は、近くの給食センターに食材を提供している「さんさん畑の会」、運営を食生活改善推進員にお願いをする。
- 休日は、チャレンジショップとして、様々な形態のお店が期間限定で営業を目指す。
- デマンド型タクシーを活用した貨客混載を行う。往路は人を乗せ、復路は「ふれあいセンターの」宅配も行う。宅配だけでなく、一緒に乗車すれば便利であり、さらに荷物分割引も設ける。

アイデア実現までのプロセス

2019年		2020年			
6~9月	ワークショップの準備	1月	第1回アンケート調査	11月	利用アプリソフトの開発 及び企画と業者依頼
	アンケート内容の検討	3月	同市内の先進事例を現地調査		
9月	第1回ワークショップ	4月	第3回ワークショップ	12月	モニターテストと利用満足調査、協議会設立総会
11月	第2回ワークショップ	6~7月	ルートマップ及び時刻表の作成、広報戦略の調整		
	免許返納者への聞き取り調査		協議会設立に向けてのワークショップ	翌年2月	地区交通会議との調整、ルート許可申請事業
12月	アンケート内容の再検討		翌年4月	デマンドタクシーの導入開始	

・ワークショップの様子





キーパーソン

↑また会いたいと思える人

鶴岡市と大東文化大学との関わり

社会学部 阿部英之助先生とのつながり

2007年東洋大学勤務時に社会学調査ゼミを鶴岡市が受け入れ。

在学中に片道500kmを10回以上通い住民と交流。

2018年に大東文化大学の准教授に就任し、大東学生が継承！！

13年間の
人の縁

初めての学生でも
のびのび活動！！

○鶴岡市の課題

「人口減少対応」



特に深刻

- ・公共交通空白地域の拡大
- ・空き店舗問題



学生の行動力とアイデアに期待!!

～市のねらい～

- ・直接的には目先の問題解決
間接的には根本原因の解決
- ・学生と住民との関わり
により生まれる

「化学反応！」

住んでよかったと思える
鶴岡をみんなで作りたい！！

市の関与 地域内移動、宿泊先支援、住民との座談会、夏まつり、地域や都内での発表会 等